

〈年次報告書〉
令和6年度の経営状況を
レポートします

いわき水みらいレポート 2025



令和7年度水道週間 絵画展 最優秀賞作品
タイトル「大切にしよう！！ぼくたちの水」
高久小学校 松本 唯斗さん

この「いわき水みらいレポート」は、市民の皆様には、水道事業の進捗状況や直面している課題など、いわき市水道事業の“現実”についてご理解いただき、共有していただければと考えて、令和6年度から発行しているものです。

水道事業は、市民の皆様の暮らしを支える重要な使命を有する一方、巨大なシステムを維持し、事業を実施する中、人口減少という社会変化に対応しながら、改善を進めていくことがより重要となっています。

本市の水道事業は100年が経過し、管路や施設の老朽化が深刻な課題となっています。災害対策についても、待ったなしで取り組みを進めていかなければなりません。

全国各地の自治体も同様であり、厳しい経営状況となっています。本市においても、人口の減少、老朽施設の更新や耐震化等の災害対策などにより、今後50年間の経営収支見通しは大変厳しい状況にあります。

このため、水道局では、施設・管路の縮小・廃止などの最適化のほか、コストの削減、サービス向上に向けた業務改善、DXなどの経営の効率化に、全力を挙げて取り組んでいます。

一方、これまで経験したことのない、この大きな変化に適切に対応するためには、新たな視点による対策が必要となってくるものと考えています。

持続可能な、安全で安心な水道水を、いつでも飲める、利用できる環境を維持していくためには、水道局、事業者、そして市民の皆様が、同じ方向を目指し、力を合わせながら取り組むことが極めて重要になります。

市民の皆様には、まずは、水道事業にこれまで以上に関心をお持ちいただく。そして、企業で言えば株主として、事業経営と一緒に考えていただき、共に創り上げていくことが重要ではないか、今、このことを強く考えています。

今般、令和6年度の決算（令和7年12月19日認定）を反映した水道事業の概略的な報告書、本市の水道事業のレベルをまとめた「いわき水みらいレポート」を発行しました。市民の皆様には、このレポートをご覧いただき、そして、水道事業に対する、ご意見、ご提案などをお寄せいただければと思います。

市民の皆様と共創、協働しながら、水道事業の社会価値を高める経営に取り組み、いわき市水道事業の次の100年に向けた持続的な事業経営を実現していきます。

令和7年12月

目次

序章 いわき市の水道事業

- 1 水道事業の仕組み 1
- 2 いわき市の水道
 - (1) 水道の全体像（将来） 3
 - (2) 施設・管路の状況 3

第1章 業務状況

- 1 給水人口と給水戸数 4
- 2 配水量・有収水量・有収率・給水収益 4
- 3 令和6年度決算（令和6年度における「経営の成績」）
 - (1) 決算の状況（全体） 5
 - (2) 収益的収支と当年度純利益 6
 - (3) 資本的収支と収支不足額、資金残高 6

第2章 施策・事業の進捗状況

- 1 基本理念及び災害対策・施設等老朽化対策の進捗状況 7
 - 《特集1 災害への備えはどうなっているの?》 8
- 2 経営効率化の取組状況 11
 - 《特集2 いわき市の水道施設は適切な規模なの?》 12

第3章 数字で見る水道経営の姿（経営指標の状況）

- 1 経営に関する項目
 - (1) 収益性（収支の状況） ※ 水道事業の経営活動の成否 . . . 13
 - (2) 財務比率 ※ 水道事業の財務の健全性 13
- 2 経営資産に関する項目
 - (1) 施設の効率性（稼働状況） ※ 施設の適正規模 15
 - (2) 生産性（職員数と事業の状況との関係） 15

序章 いわき市の水道事業

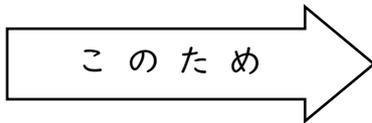
1 水道事業の仕組み

どうして水道料金が必要なの？



つるさん

公共の福祉と経済性の両立が必要
独立採算制が原則



事業経営に必要な費用を
水道料金収入
で、まかっています。

市民のみなさまからいただいた水道料金は、
「水をつくる」「水を届ける」ために使用しています。

市民のみなさま



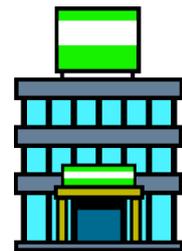
水道料金をお支払いいただきます。



安全でおいしい水道水をお届けします。



水道局

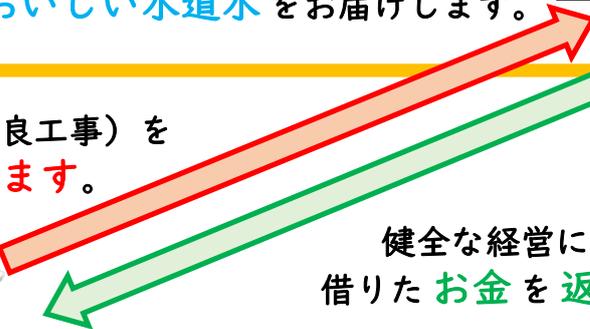


施設や水道管の整備（建設改良工事）を
行うために **お金を借ります**。

国・
金融機関



健全な経営に努め、
借りた **お金を返します**。



水をつくる

浄水処理

河川水や地下水を
原水として良質な
水道水をつくります。



水質検査

水道水の安全性を
チェックします。



水を届ける

水道管の工事



送水管・配水管の布設や
維持管理を行い、大切な
ライフラインを守ります。

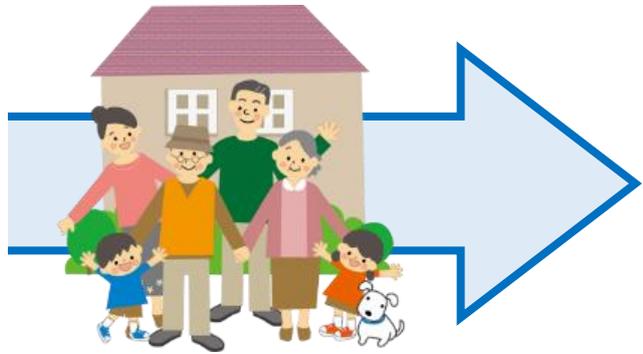
まとめると



かっぱさん

いつでも安心して使用いただける水を、
効率的な経営のもと適正な料金で安定して提供することが、
水道事業者の使命です。

水道事業	清浄	安全で 安心な水	
	豊富	24時間 365日	
	低廉	適正な 水道料金	



そして、これからも市民のみなさまとともに
水道事業を守り育み、**未来へつないでいきます。**

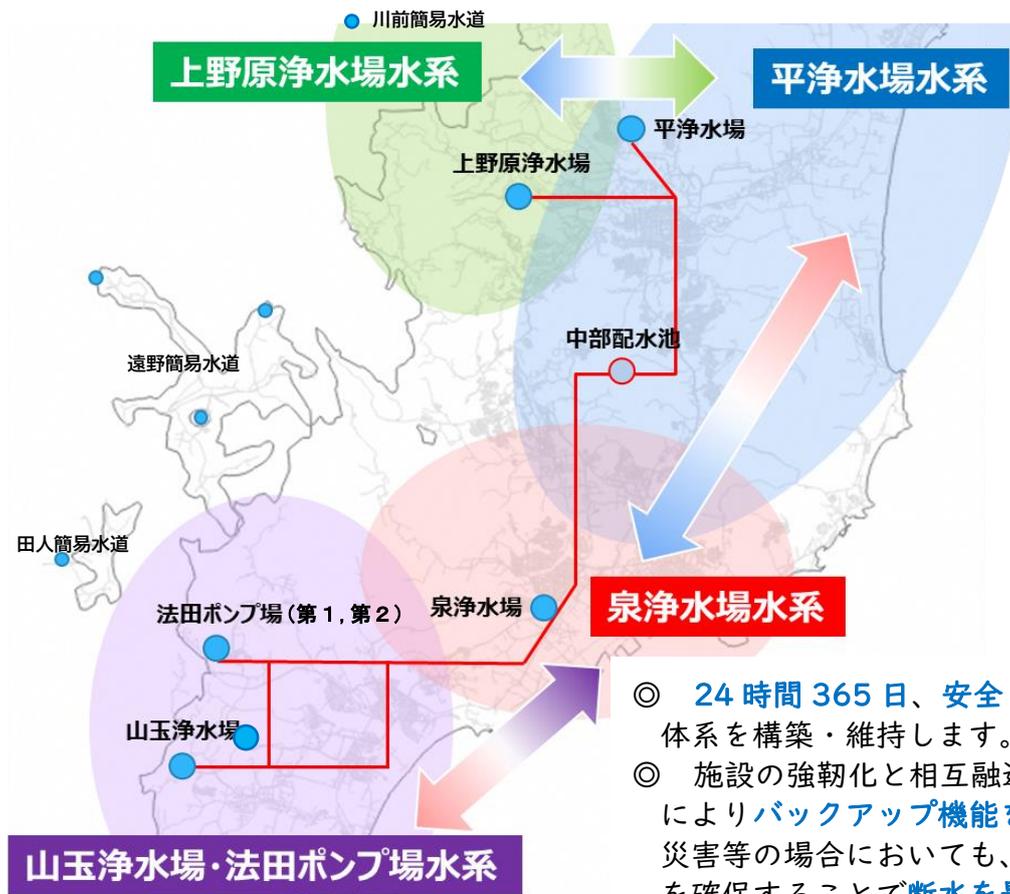
どうやって 蛇口から 水が出てくるの？



政府広報オンライン「飲み水はどこから？使った水はどこへ？暮らしを支える「水循環」」
(<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201507/4.html>) を加工して作成

2 いわき市の水道

(1) 水道の全体像 (将来)



- ◎ 24時間365日、安全・安心な給水体系を構築・維持します。
- ◎ 施設の強靱化と相互融通体制の構築によりバックアップ機能を強化し、災害等の場合においても、必要な水量を確保することで断水を最小化します。

(2) 施設・管路の状況

区 分	いわき市	県内他市			類似団体 平均
		福島市	郡山市	会津若松市	
給水区域面積(km ²)	466.03	273.40	293.28	137.11	-
浄水場(施設)	11	2	4	4	8
配水池(施設)	135	35	25	23	56
導送配水管延長(km)	2,284.35	1,648.82	1,840.08	819.37	2,016.89
うち導水管延長	10.90	4.34	13.02	4.68	-
うち送水管延長	23.10	60.41	9.43	5.09	-
うち配水管延長	2,250.35	1,584.07	1,817.63	809.60	-

※ 本市は令和6年度末現在の数値、県内他市及び類似団体は令和5年度末の数値。

※ 類似団体とは、現在給水人口が30万人以上の末端給水事業の40事業体。(県、政令指定都市、企業団及びいわき市を除く。)



いわき市は、他市と比べて給水区域面積が広いため、施設数も多く、管路延長も長いんだ。

施設や管路は、長期にわたって使用するために適切な維持・管理を行う必要があるんだ。

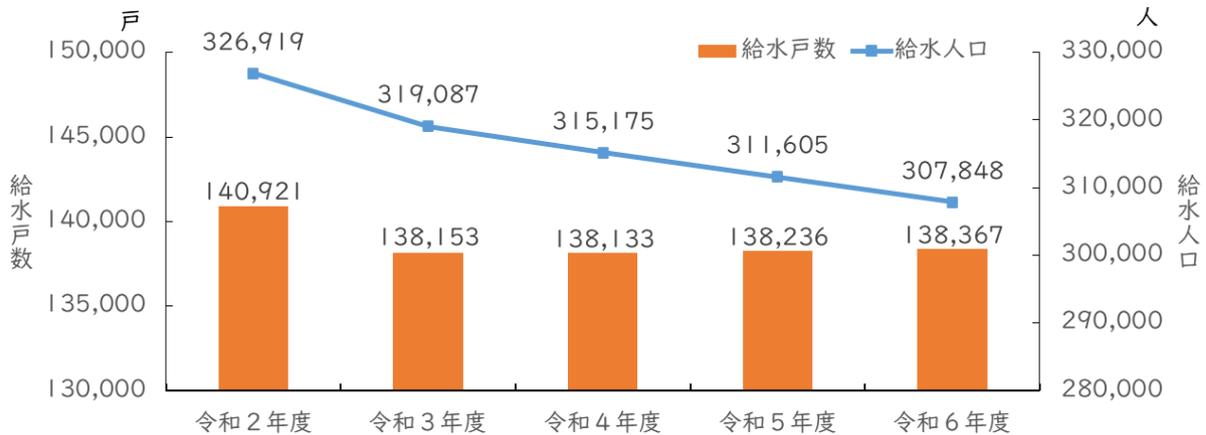
老朽化が進んだ施設や管路は、大規模災害に備えて、更新するなど、強靱化を図ることも大事だよ。



第1章 業務状況

1 給水人口と給水戸数

〔給水人口・給水戸数〕 給水区域内に居住し、上水道・簡易水道より給水を受けている人口と世帯数



令和6年度末の給水人口は 307,848 人で、前年度と比較して 3,757 人 (1.2%) 減少しました。
また、給水戸数は 138,367 戸で、131 戸 (0.1%) 増加しました。

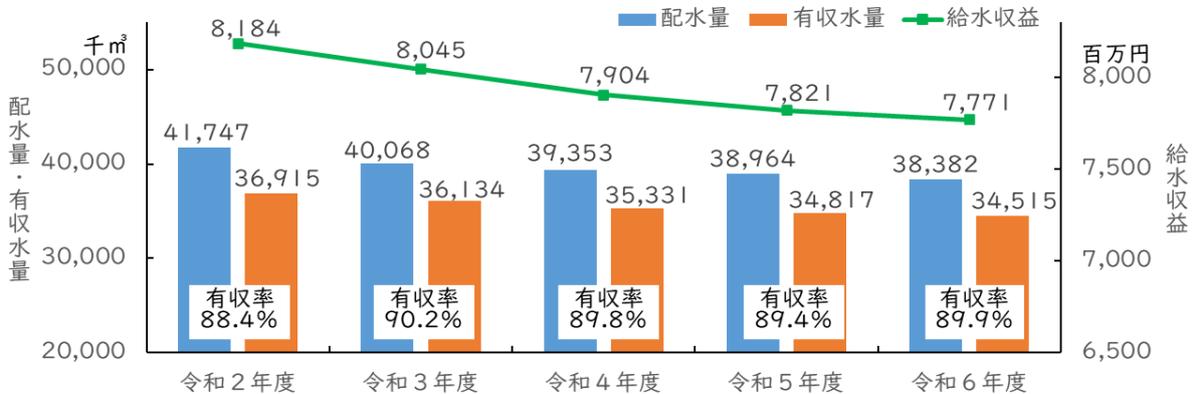
2 配水量・有収水量・有収率・給水収益

〔配水量〕 配水池等から配水管に送り出した水量

〔有収水量〕 皆様へお届けした水量のうち、料金収入の対象となった水量

〔有収率〕 送り出した水が、どの程度料金収入に反映しているかを示すもの (有収水量÷配水量)

〔給水収益〕 皆様から使用水量に応じてお支払いいただいた水道料金の収入



令和6年度は、前年度と比較していずれも減少しました。

- ・配水量 38,382 千m³ (前年度比較△582 千m³ (△1.5%))
- ・有収水量 34,515 千m³ (前年度比較△302 千m³ (△0.8%))
- ・給水収益 7,771 百万円 (前年度比較△50 百万円 (△0.6%))



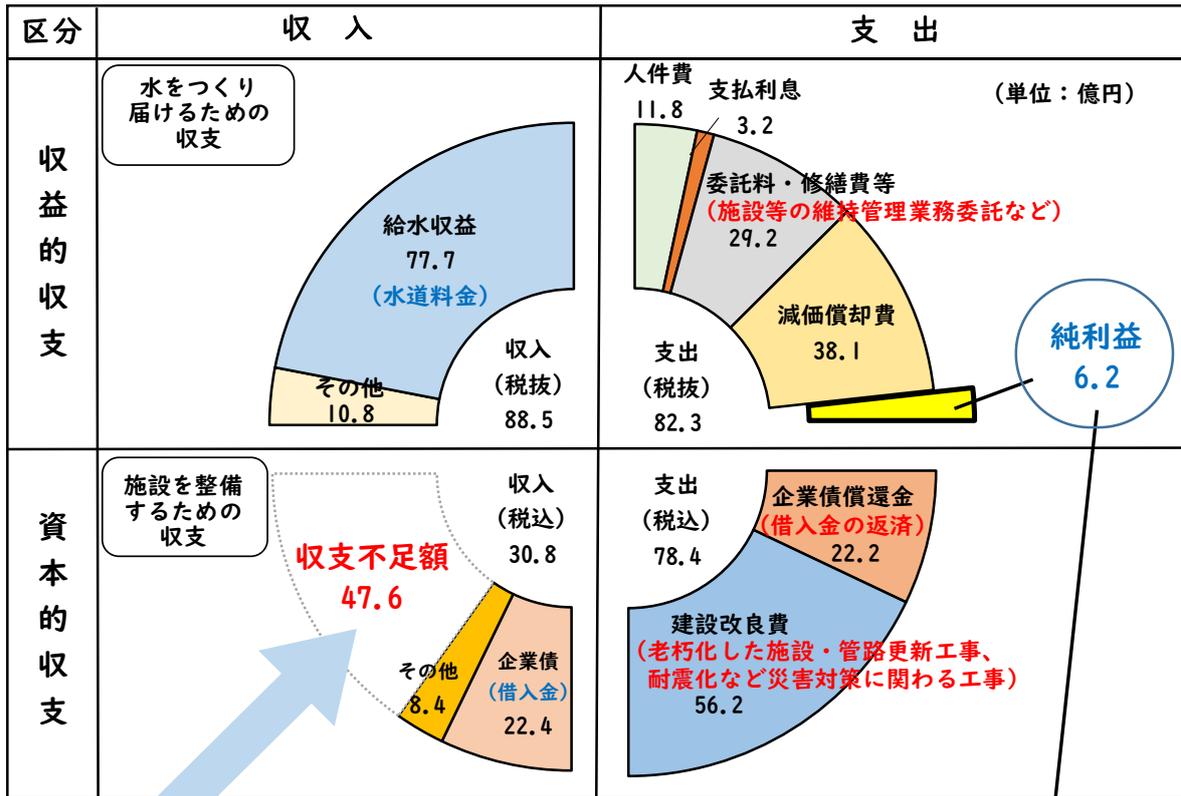
給水人口は年々減少しているよ。
また、給水人口の減少に伴って有収水量が減少し、給水収益も減少しているよ。

給水人口の減少は、今後も続くことが推測されるね。
また、有収率は概ね90%で横ばいだけど、配水量と有収水量に差、つまり、漏水が発生していることを表しているんだ。
今後は、老朽化した管路を更新することで漏水を防止することも課題だね。



3 令和6年度決算（令和6年度における「経営の成績」）

(I) 決算の状況（全体）



令和5年度末時点で保有していた資金 (67.3億円)

令和6年度に確保した資金 (43.5億円)

((補う))



補填財源(収支不足額を補う財源)
110.8億円

令和6年度末資金残高 63.2億円
⇒ 次年度以降の運転資金

水道事業会計は、水をつくり届けるための「収益的収支」と、施設を整備するための「資本的収支」で構成されています。

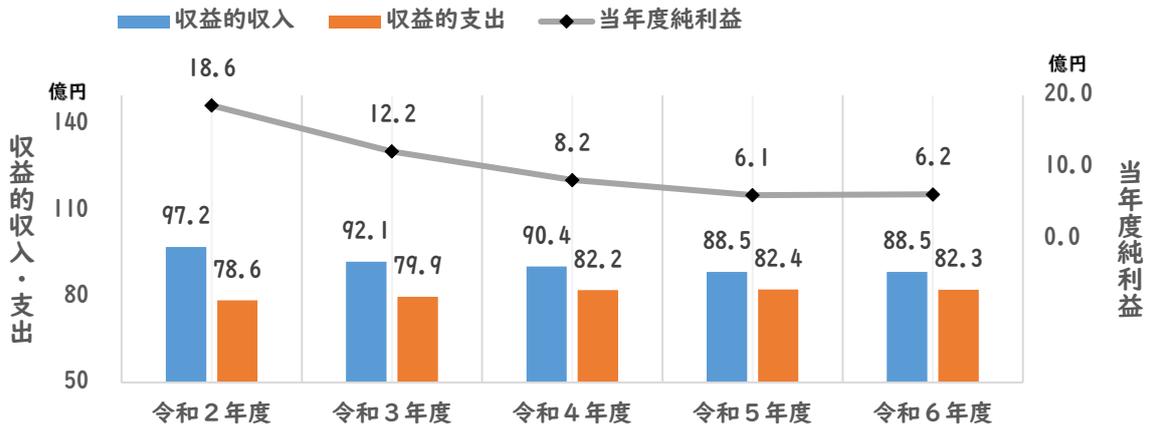
令和6年度は、収益的収支において、収入が88.5億円、支出が82.3億円となり、差し引き6.2億円の純利益（黒字）となりました。

また、資本的収支において、支出が78.4億円、収入が30.8億円となり、差し引き47.6億円の収支不足となりました。

資金不足を補った結果、令和6年度末の資金残高（次年度以降の運転資金）は、63.2億円となりました。

令和6年度は、「純利益」と「資金残高」をみるとほぼ前年度並みの経営の成績でしたが、長期で見ると減少傾向であり、今後、より厳しい状況が予測されます。

(2) 収益的収支と当年度純利益



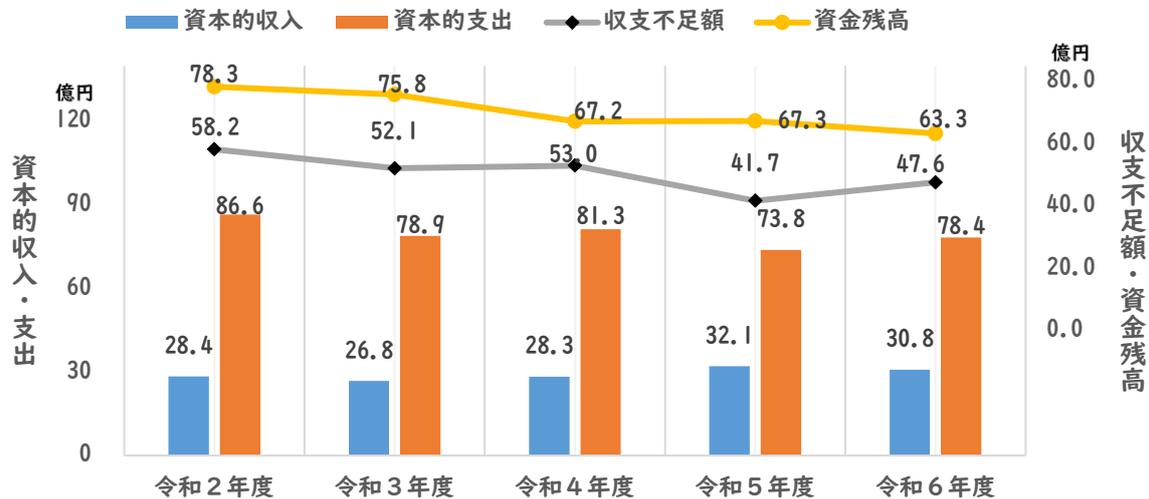
収入のポイント

給水人口の減等に伴い、収入の根幹となる給水収益は0.5億円減少しました。

支出のポイント

給与改定等に伴い人件費は1.9億円増加したものの、計画修繕の減に伴い修繕費が1.9億円減少しました。

(3) 資本的収支と収支不足額、資金残高



支出のポイント

非常時におけるバックアップ体制構築や土砂災害対策、浸水対策のほか、老朽化した管路の更新等の費用として56.2億円を支出しました。また、借入金の返済に22.2億円支出しました。

収入のポイント

建設改良費の財源として、借入金22.4億円のほか、市からの繰入金5億円等の収入がありました。資金残高は、前年度と比較して4億円減少しました。



収益的収支は各年度で黒字だけど、

黒字額は減少傾向だよ。また、運転資金となる**資金残高も年々減少**しているよ。

黒字額が減少しているのは、みんなが負担している**水道料金の収入である給水収益の減少**や、**電気料金など施設の維持管理費の増加**が要因なんだ。

水道水の安定供給には、**老朽化した多くの施設・管路の更新**や、**災害対策を進めていく**が必要があり、そのためには**多額の資金も必要**になるんだ。

だから、施設整備には、統廃合やダウンサイジングなど、**給水人口に見合った見直しが必要**だよ。加えて、**経営の効率化を図ることが必要**だよ。

施設整備により資金不足が見込まれるときは、**収入と支出のバランスをとるため、料金の見直しを検討する**必要もあるね。



第2章 施策・事業の進捗状況

1 基本理念及び災害対策・施設等老朽化対策の進捗状況

基本理念「未来に引き継ぐいわきの水道」

～ 安全でおいしい水を必要なだけ ～

区分	対策名	概要	進捗状況 (令和6年度末)	業務指標 (単位: %)		
				令和6年度 実績値	令和8年度 目標値	令和13年度 目標値
災害 対策	水道施設 津波・浸水 対策	防護壁の設置 開口部の防水化 止水板の設置等	対象施設9施設中、 8施設が完了	津波・浸水対策実施率		
				88.9	令和7年度 完了予定	
	水道施設 土砂災害 対策	法面への落石防護網 の設置等	対象施設3施設中、 3施設が完了	土砂災害対策実施率		
				令和6年度 完了	-	
	水道施設 停電対策	自家発電設備の整備 移動電源車の購入等	対象施設23施設中、 16施設が完了	停電対策実施率		
				69.6	73.9	令和13年度 完了予定
	基幹浄水場 連絡管整備	鹿島・常磐水系幹線、 中部配水池の新設	総工区11工区中、 9工区が完了	基幹浄水場連絡管整備事業の進捗率		
				81.8	76.9	令和10年度 完了予定
				⇒ 浄水場水系間の連絡管等整備に よるバックアップ機能の強化		
	重要給水施設 配水管整備	耐震化された配水池 から重要給水施設 までの管路耐震化	救急医療機関や人工透析 病院等が対象 対象施設65施設中、 22施設が完了(33.8%)	重要給水施設配水管路の耐震管率 (耐震管延長/対象延長)		
			59.3	63.8	70.1	
			⇒ 救急医療機関等への 確実な給水の確保			
			非常時 も安心だね♪			
水道施設・ 管路耐震化	耐震診断の実施、 耐震補強や更新に よる施設・管路の 耐震化	・浄水場 全11施設中、 1施設が完了(9.1%) ・配水池 全135施設中、 39施設が完了(28.9%) ・基幹管路 総延長228.4km中、 106.1kmが完了	浄水施設の耐震化率 (耐震化浄水施設能力/全浄水施設能力)			
			23.6	23.6	33.2	
			配水池の耐震化率 (耐震化配水池容量/全配水池容量)			
			58.6	47.0	56.0	
			基幹管路の耐震管率			
			46.5	47.5	51.1	
			・浄水場は「浄水場再整備事業」に より計画的に耐震化を実施 ・施設・管路はダウンサイジングを 図りながら耐震化を実施			
施設等 老朽化 対策	水道施設更新	老朽化した浄水施設 や配水施設、設備の 更新	令和6年度は浄水場の中央 監視設備や配水池の水位 計等を更新	標準使用年数や延長使用年数に 基づいて更新を実施		
	老朽管更新	老朽化した管路の 更新 (年間更新率の目標 は総延長の1%)	令和6年度は20.2km、 0.88% (令和5年度の 全国平均は0.61%)	安定的に水が 供給されるね♪		

《 特集1 災害への備えはどうなっているの? 》

災害発生・・・いわき市の水道はどうなった?

東日本大震災と令和元年東日本台風で経験した断水の状況です。
多くの方が飲み水に困ることになり、水道局では、全国の都市などの応援を受けながら、応急給水や水道管の復旧を行いました。

東日本大震災
施設・管路が破損⇒機能停止
約13万戸(市内ほぼ全域)断水
断水解消までに約40日



【東日本大震災】昼夜問わず断水解消に従事

令和元年東日本台風
平浄水場が浸水⇒機能停止
約4万5千戸(市内の3分の1)断水
断水解消までに15日



【令和元年東日本台風】夏井川の決壊などで平浄水場が浸水

災害に強い水道へ

津波や大雨による**浸水被害が発生**しても水道水を**安定供給**するため
施設に**擁壁等**を設置する工事を進めています。



平浄水場の浸水対策



対策スケジュール

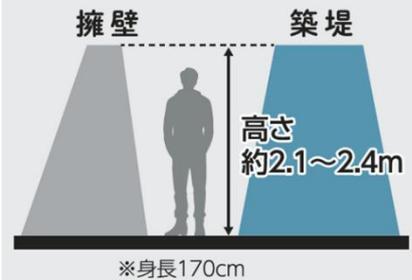
令和元年度 暫定対策として、大型土のうを設置
令和2～4年度 恒久対策の基本・詳細設計、関係機関協議、用地取得
令和5～7年度 擁壁・築堤で浄水場の外周を囲む工事を実施
(総事業費 約5億7千万円(予定))



浸水対策完成後のイメージ

令和8年2月頃に完成予定

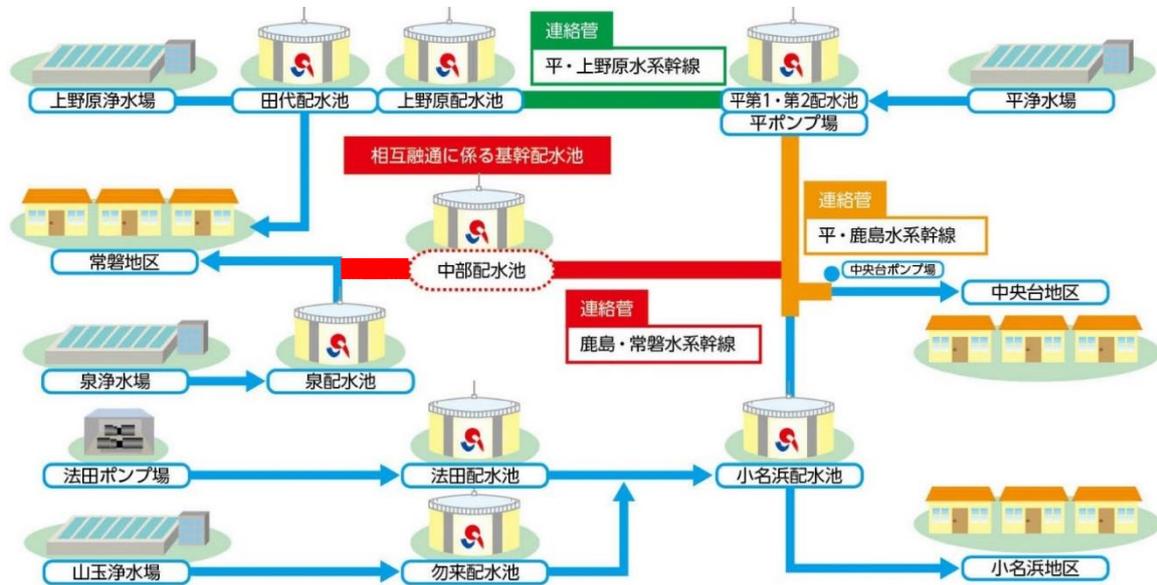
擁壁と築堤で浄水場を守ります



浸水深2mにも耐えられるよう、高さ約2.1～2.4mの擁壁(コンクリート壁など)と築堤(盛土)を浄水場の外周に設置し、浸水を防ぎます。

災害に強い水道へ（つづき）

大きな**災害が発生**しても**広域断水しない**ように
各浄水場の間をつなぐ工事を進め、**バックアップ機能を強化**しています。
(計画期間：平成15年度から令和10年度まで(26カ年)、総事業費：約178億6千万円(予定))

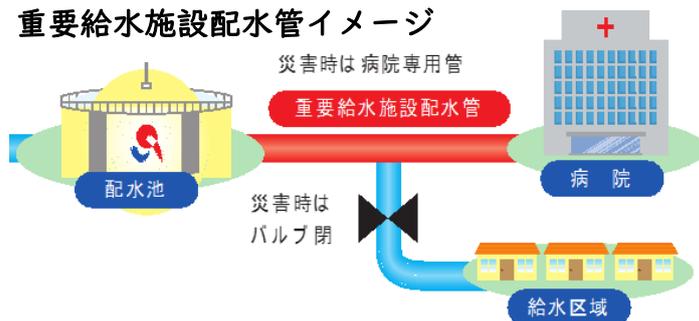


平浄水場が被災して広域で断水した時も、
上野原浄水場からのバックアップで平地区の断水区域が縮小されたよ。



災害等の**非常時**においても**確実に給水**するため、耐震化した配水池から
救急医療機関等（**重要給水施設**）までの管路の耐震化を進めています。
(計画期間：平成29年度～、対象施設数：65施設、整備延長：36.2km、総事業費：約130億円(予定))

重要給水施設配水管イメージ



いわき市医療センター

【整備済施設（～令和6年度）】

救急医療機関・人工透析病院	公共施設・福祉避難所
松村総合病院	県立平支援学校
かしま病院	福島県いわき海浜自然の家
(旧)松尾病院	中央台市民サービスセンター
ニュータウン腎・内科クリニック	中央台分遣所
かもめクリニック	江名分遣所
いわき市医療センター	久之浜・大久支所
大河内記念病院	川前支所
常磐病院	川前分遣所
いわき泌尿器科	小川支所
松尾病院	いわきゆったり館
	いわきサン・アビリティーズ
	いわき支援学校



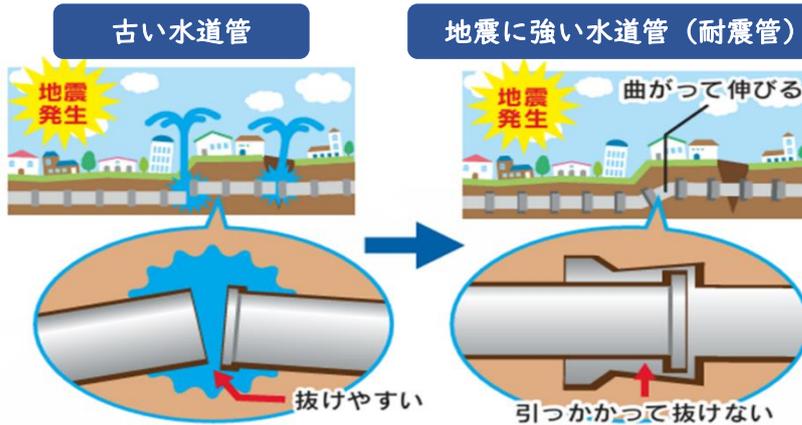
久之浜・大久支所
(地域防災交流センター
久之浜・大久ふれあい館)

古くなった水道管を地震が起きてもこわれにくい水道管に取り替えています。

(事業費・管路更新率 令和5年度決算：26億6千万円、0.68%
 令和6年度決算：37億8千万円、0.88%
 令和7年度予算：36億9千万円、1.00% (目標値))

全国的に水道管の老朽化が問題となっていて、各地で大規模な断水が発生しています。古くなった水道管は、腐食などでこわれたり、にごり水が発生しやすくなったりするため、新しい水道管に取り替える必要があります。

いわき市の水道管はとても長く、総延長約2,284kmもあります。そのうち1%にあたる約23kmを年間目標に、古い水道管から地震に強い水道管に取り替えています。



断水や漏水を防止するため、計画的な更新が必要だね。



漏水発生



老朽化により漏水した水道管



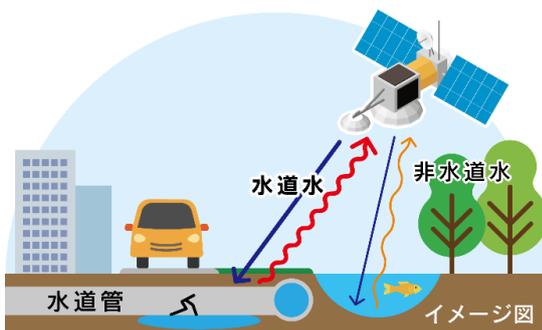
地震に強い水道管への取替え工事

《トピックス》 衛星画像解析による漏水調査

漏水修理件数	
令和4年度	254件
令和5年度	217件
令和6年度	99件



さらなる漏水箇所の早期発見に向けて広範囲を効率的かつ効果的に調査できる「衛星画像解析による漏水調査」に取り組んでいます。



【調査概要】

- ① 衛星から地表へ電磁波を放射し画像を撮影
- ② 画像を分析して地中の水道水を検出
- ③ 漏水の疑い箇所を半径100mの範囲で特定

2 経営効率化の取組状況

(単位：千円)

経営効率化の取組	主な取組内容 (令和6年度の実績)	R4～R5 効果額	R6効果額	累計
水道施設の適正化・効率化の取組、水道施設の更新需要等経費節減の取組				
水道施設のダウンサイジングの検討 水道施設長寿命化計画の推進	・輻輳管の統合 ・配水施設及び管路の適正化 (ダウンサイジング)	2,823,220	573,725	3,396,945
水道施設の効率的な運用	・浄水場の効率的な水運用【浄水経費の安価な浄水場の送水量を増加】 (上野原浄水場・法田第2ポンプ場の送水量増量)	23,224	34,783	58,007
漏水防止対策事業	・衛生画像解析による漏水調査業務により現地調査対象エリアを絞り込み経費を節減	0	43,543	43,543
計		2,846,444	652,051	3,498,495
財源確保及び業務改善の取組				
財政支援等の要望と新たな財源確保の推進 企業債管理の適正化	・老朽管更新事業、災害対策事業に係る財源として、国庫補助・交付金を活用 ・企業債の借入方法を利率見直し方式に変更し、利息を縮減	121,036	262,245	383,281
業務改善の推進	・工業計器保守点検点検頻度の見直し (年1回→2年に1回)	39,874	55,629	95,503
ICT活用による業務の効率化の検討	・財務会計システムによる水道料金等の入金処理の自動化(RPA)	946	1,145	2,091
計		161,856	319,019	480,875
効率的な組織体制構築の取組				
職員教育の充実と求められる技術力の確保	・各種研修への派遣【オンライン研修の活用による旅費や移動時間等の削減】	777	891	1,668
計		777	891	1,668
合 計		3,009,077	971,961	3,981,038

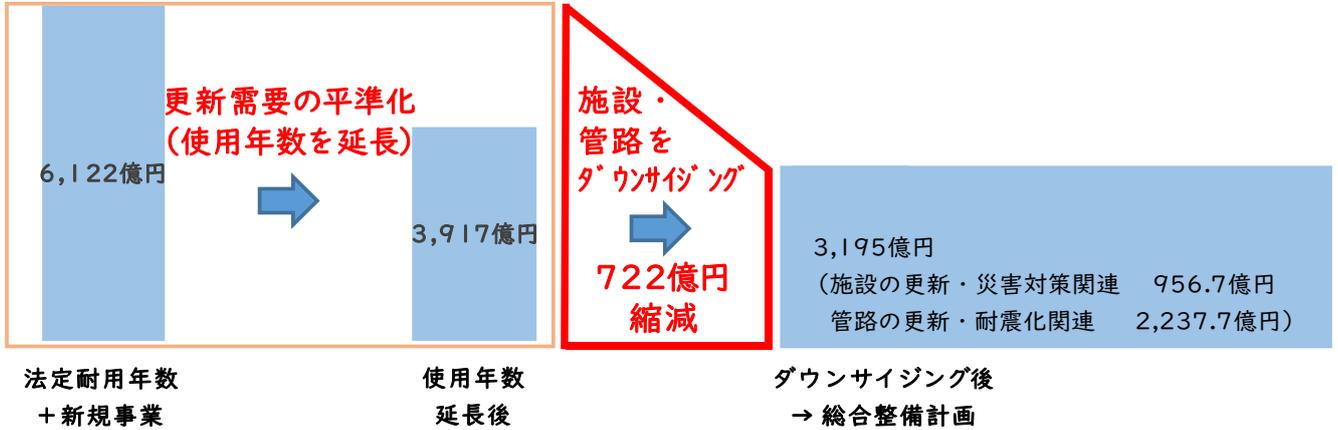


施設の管理や業務のほか、浄水場の再整備や管路の更新等における民間事業者との官民連携、コスト縮減、サービス向上に向けた業務改善、DXにも取り組んでいるよ。

《 特集2 いわき市の水道施設は適切な規模なの？ 》 (いわき水みらいビジョン 2031 に位置付けた施設最適化の方向性)

- ① 施設や管路は、適切な維持管理を行うことで耐用年数よりも長い期間使用
- ② 人口の減少に伴う水の需要に見合った適切な規模への見直し

(令和4年度から令和53年度までの更新需要)



◎ 人口の減少に基づく水の需要に見合った最適規模化に向けて (水道施設総合整備計画より抜粋)

縮減内容		効果額
水道施設の統廃合による縮減額		270 億円
バックアップを考慮した施設の統廃合 (廃止施設 7施設)		32 億円
水系変更により施設の廃止 (廃止施設 25施設)		40 億円
統廃合等に伴う路線の廃止 (廃止延長 26km)		115 億円
輻輳管統合 (廃止延長 57km)		83 億円
水道施設の適正化 (ダウンスライジング) による縮減額		452 億円
浄水場のダウンスライジング (206,250m ³ /日→116,413m ³ /日)		81 億円
配水施設のダウンスライジング (66,052m ³ →42,665m ³)		57 億円
管路のダウンスライジング (更新延長 502km)		314 億円
合計		722 億円

水道管を細くしたり、配水池を小さくしたりすることで費用を抑え、
50年間で722億円、1年間で約14億円の費用縮減に努めているんだね。



《トピックス》 これまでの「効率的な組織体制の構築」と 「官民連携による業務改善」

① 組織見直しの取組状況

年度	取組内容
H19	○ 5 営業所の廃止
H23	○ 4 基幹浄水場の職員配置体制の見直し
H25	○ 本庁技術部門の再編 ○ 小名浜・勿来工事事務所の統合 ○ 営業部門の業務委託に伴う組織見直し
R2	○ 総務課と経営企画課の再編 ○ 総務課に人材育成・防災力向上担当を新設

② 業務委託の取組状況

年度	取組内容
H11	○ 浄水場維持管理業務の民間委託 H17～ 夜間・休日業務から全日業務に拡大 H26～ 緊急時の対応業務を追加 R 5～ 修繕工事 (年間500万円) を追加
H19	○ 水道管緊急修繕業務の民間委託
H25	○ 水道料金等徴収関連業務の民間委託 H28～ 給水加入金等窓口収納業務を追加 R 3～ 不良メーター取替業務を追加

第3章 数字で見る水道経営の姿（経営指標の状況）

グラフの凡例

- いわき市数値
- 類似団体(給水人口 30 万人以上)平均値
- 県内 3 市(福島市・郡山市・会津若松市)平均値

優位性について

- 数値が高い方が望ましい場合 「↑」
- 数値が低い方が望ましい場合 「↓」
- いずれとも示せない場合 「-」

1 経営に関する項目

(1) 収益性（収支の状況） ※ 水道事業の経営活動の成否

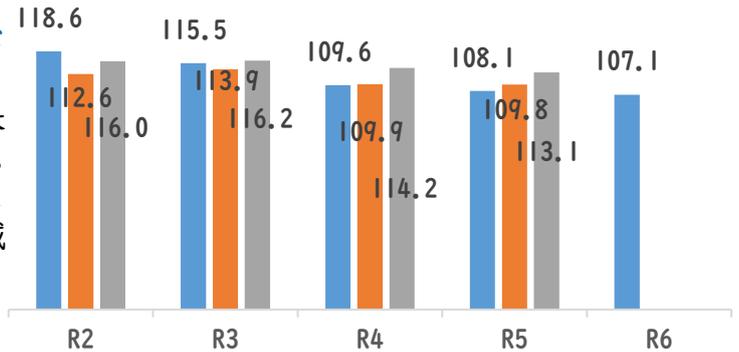
経常収支比率

【算式】 $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$ 【単位】 % 【優位性】 ↑

費用が収益によってどの程度まかなえているかを示しています。

比率が 100% を下回ると、経常損失（赤字）が生じていることになります。

令和 6 年度は、給水収益の減等により、前年度と比較して 1.0 ポイント減少しました。



費用を収入でまかなえているけど...



比率が年々減少しているのが心配だな。

(2) 財務比率 ※ 水道事業の財務の健全性

① 資本に関する項目

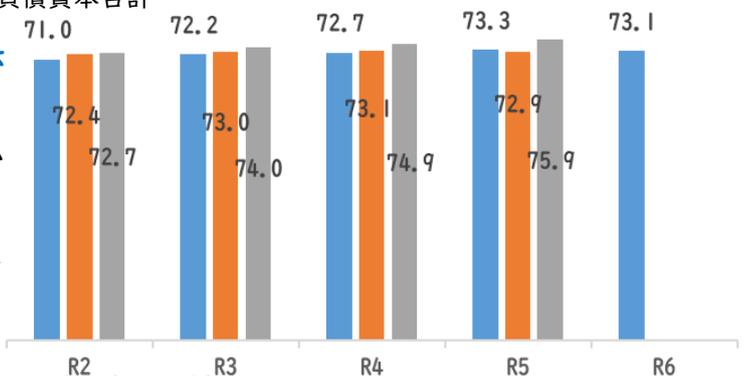
自己資本構成比率

【算式】 $\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$ 【単位】 % 【優位性】 ↑

総資本に占める自己資本の比率を示しています。

比率が高いほど、経営は安定しています。

令和 6 年度は、0.2 ポイント減少しました。



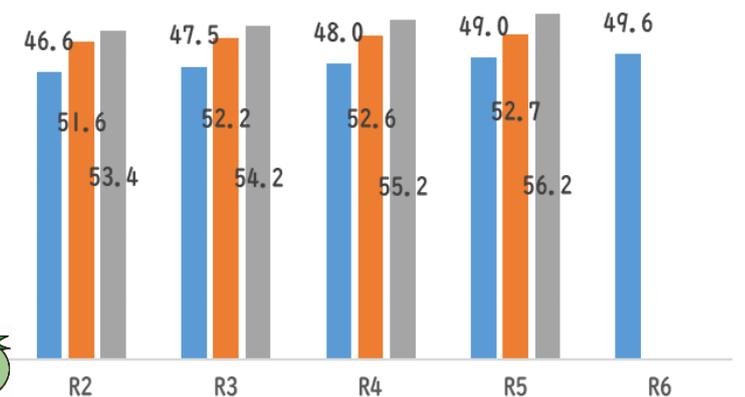
有形固定資産減価償却率

【算式】 $\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{償却対象資産帳簿原価}} \times 100$ 【単位】 % 【優位性】 ↓

建物や管路などの老朽化の度合いを示しています。

比率が 100% に近いほど、資産が法定耐用年数に近づき、老朽化が進行しています。

令和 6 年度は、0.6 ポイント増加しました。



比率が増加傾向だね。

計画的な施設整備が必要だよ。



② 負債に関する項目

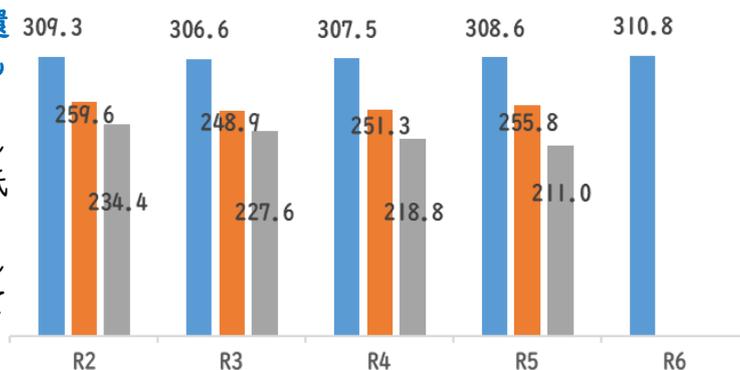
企業債残高対給水収益比率

【算式】 $\frac{\text{企業債残高}}{\text{給水収益}} \times 100$ 【単位】 % 【優位性】 ↓

給水収益に対する企業債の未償還残高（借入金の残高）の割合を示すものです。

企業債の発行額が事業規模に対して適正かをみるものであり、比率は低いほどよいです。

令和6年度は、2.2ポイント増加しました（料金収入の3倍程度となっている）。



比率が
他市より
高いね。

安定経営に向けて企業債の発行を抑える必要があるよ。



③ 料金に関する項目

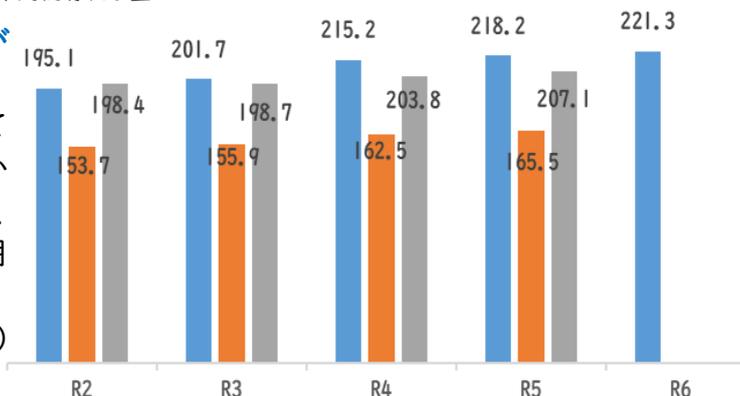
給水原価

【算式】 $\frac{\text{経常費用} - (\text{受託工事費} + \text{材料売払原価} + \text{長期前受金戻入})}{\text{年間総有収水量}}$ 【単位】 円/㎡ 【優位性】 ↓

水量1㎡当たりどれだけの費用がかかっているかを示すものです。

本市は、水源を中小河川へ依存していることや広域で起伏に富む地勢から多くの水道施設を必要とするため、施設の維持管理費等給水に係る費用が多くかかっています。

令和6年度は、3.1円/㎡（1.4%）増加しました。



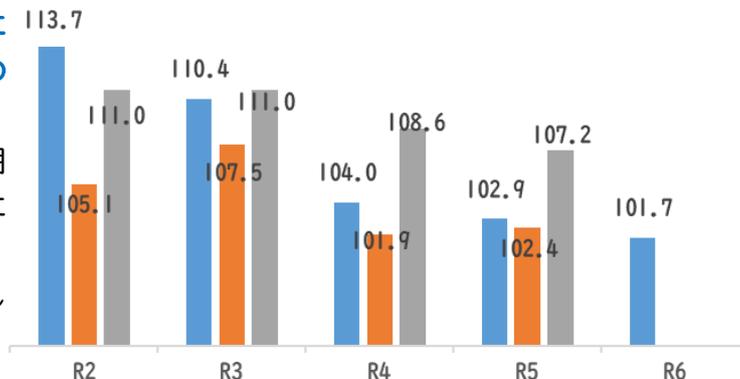
料金回収率

【算式】 $\frac{\text{給水収益}}{\text{年間総有収水量} \times \text{給水原価}} \times 100$ 【単位】 % 【優位性】 —

給水に係る費用がどの程度料金により回収されているのかを示すものです。

比率が100%を上回ると、給水費用を料金収入でまかなえていることになります。

令和6年度は、1.2ポイント減少しました。



費用を収入で
まかなえているけど
ギリギリだね・・・

比率が年々減少していて、このままではまかなえなくなるな・・・



2 経営資産に関する項目

(1) 施設の効率性（稼働状況） ※ 施設の適正規模

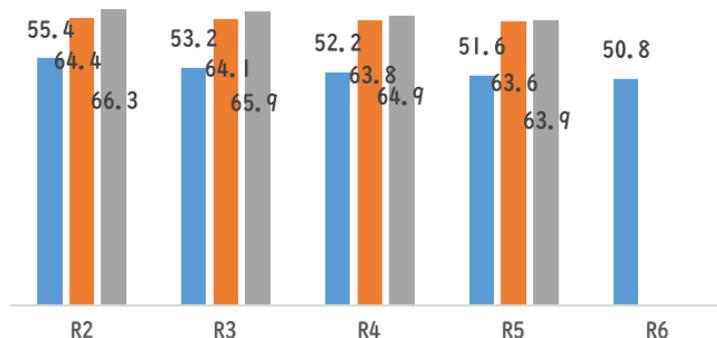
施設利用率

【算式】 $\frac{\text{一日平均配水量}}{\text{一日配水能力}} \times 100$ 【単位】 % 【優位性】 ↑

施設の配水能力に対する一日の平均配水量の割合を示すものです。

施設の利用状況や適正規模をみるものであり、比率は高いことが望まれます。

令和6年度は、0.8ポイント減少しました。



比率が、他市よりも低く、年々減少しているね。

施設の規模は、水の需要に見合ったものに見直す必要があるよ。



(2) 生産性（職員数と事業の状況との関係）

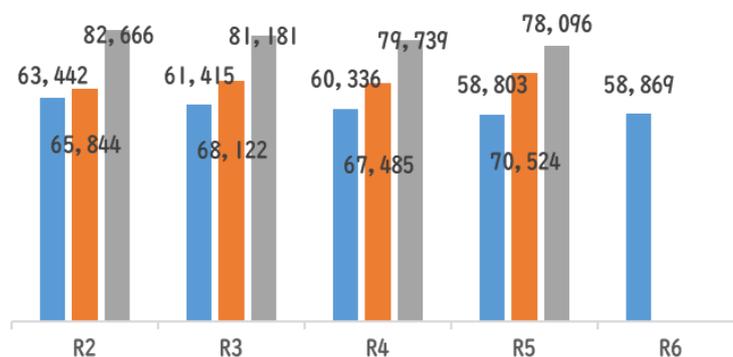
職員一人当たり給水収益

【算式】 $\frac{\text{給水収益}}{\text{損益勘定所属職員数}} \div 1,000$ 【単位】 千円 【優位性】 ↑

職員一人当たりの料金収入を示すものです。

職員一人当たり給水収益が高いほど、より少ない人員で効率的な経営ができていくことになります。

令和6年度は、損益勘定所属職員数が1人減少したため、6万6千円増加しました。



収益が、他市よりも低く、減少傾向だね。

これまで以上に業務の改善を進め、経営の効率化を図る必要があるよ。

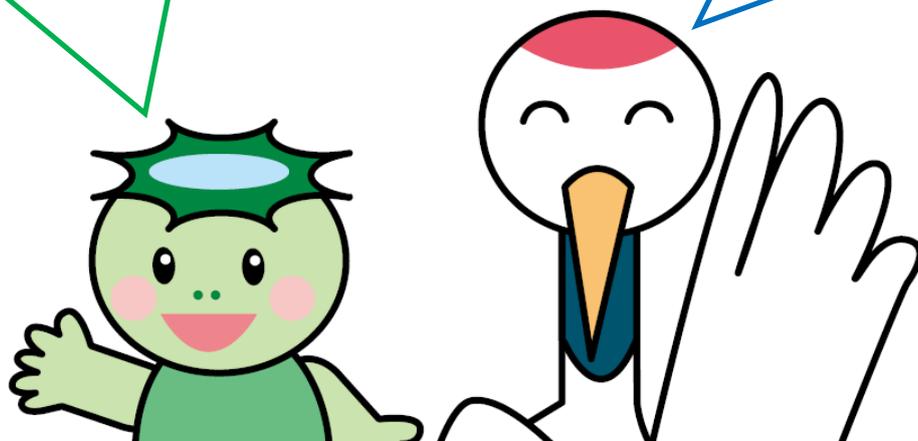


水道事業の詳細については、
水道局のホームページに掲載しているよ。
水道事業を詳しく知りたい方は、
水道局のホームページをみてね。

詳しくは [こちら](#)



皆さんからの
意見をまってるよ。



ご意見・ご提案などをお寄せください

<https://logoform.jp/form/NczP/786259>



いわき水みらいレポート 2025

令和7年12月発行 いわき市水道局経営戦略課
〒970-8026 福島県いわき市平字童子町2番地の5
電話 0246-22-9310 / FAX 0246-21-4844